HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『境界研究』第4号の刊行によせて
Author(s)	岩下, 明裕; 平山, 陽洋; 福田, 宏
Citation	境界研究, 4, 3-4
Issue Date	2013-11-29
DOI	10.14943/jbr.4.0
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/62239
Type	bulletin (article)
File Information	00foreward.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

『境界研究』第4号の刊行によせて

グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」が2009年に始動して、四年が過ぎ、2013年3月でのプログラム終了が近づいてきました。日本でボーダースタディーズを定着させるというチャレンジングなプログラムでしたが、地域研究コンソーシアム、ならびに、日本国際政治学会、アジア政経学会を始めとする様々な研究コミュニティとの協働を通じて、境界問題を学際的・総合的に考えるというこの学問領域の存在も知られるようになってきました。このプロセスにおいて、本プログラムが主宰する『境界研究』が果たしてきた役割は大きいものであったと確信します。

本雑誌は、様々な企画や特集をベースにしながらも、原則として匿名のレビューを前提に境界問題に関心を有するすべての研究者に開放するかたちで、これまで運用してきました。急なレビュー依頼を無報酬で受けてくださった多くの研究者の方々、また厳しいコメントを受けても改稿を重ねることで素晴らしい貢献を果たしてくれた若手研究者の方々には心よりお礼申し上げます。おかげさまで、これら不断の積み重ねにより、本雑誌はこの新しい研究領域の主要なコミュニティ雑誌として大きく成長しました。

本プログラム終了後、雑誌をどのように維持するか、この一年間、この仕組み作りを考えてまいりました。結論として、今号は北海道大学スラブ研究センターを中核にあらたに設置された境界研究ユニット(UBRJ: Eurasia Unit for Border Research (Japan))との共同刊行のかたちをとることにしました。これに伴い、来年度以降の刊行を境界研究ユニットが本プログラムから引き継ぐことになり、本誌はボーダースタディーズの研究コミュニティへの責任を果たすことができます。

本雑誌は、すでにスラブ・ユーラシアの地域を越え、世界中の境界・国境問題の知見を発信する媒体となっています。今号では、北米をテーマとする論稿が二本、中・東欧地域をテーマとする論稿が三本収録されています。ボーダースタディーズはまだまだ発展途上の学問ですが、逆に言えば、地域のスケールを広げ、

理論的な視座を開拓しうるフロンティアの領域に満ちています。皆さまの今後のご協力をお願いするとともに、境界問題に関心をもつあらゆる研究者の本雑誌への投稿を歓迎します。また地域を越えた比較の観点から、これからもレビュー体制の充実を図りたいと思います。引き続き、ご指導・ご支援をいただければ幸いです。

2013年11月11日

『境界研究』(Japan Border Review)編集部

岩下明裕　平山陽洋　福田宏